

尊光寺報

第142号
令和6年9月

徳島県阿波市市場
町大野島字天神41
尊光寺

法要・行事のご案内

◎秋の彼岸会永代経法要

【9月22日(日)・祝】 午後1時より法要・法話

【9月23日(月)・振休】 午後1時より法要・法話

※23日は仏教婦人会による養護老人ホームお接待です。お接待ができない場合は会員による会食と致します。会食は11時半より、準備お手伝いは9時頃よりお願い致します。

両日とも、どなた様もお気軽にお参りください。

法話講師：長谷川憲章師(広島県三次市善徳寺住職)

ご講師の長谷川師は、お寺でサマーキャンプや遺影撮影会などの様々なイベントを行ったり、ギターを演奏しながらご法話をしたりと、親しみやすいお寺を運営されています。



お彼岸とは、さとり岸、阿彌陀さまの極楽浄土のことです。お念仏を申しつつ先立つた方々を偲び、この私も同じ浄土へ参ることに思いを寄せましょう。どなたさまもお参りください。お待ちしております。

◎宗祖親鸞聖人報恩講法要

【12月14日(土)】

午後1時より 法要・法話

午後5時より お齋(夕食)

午後6時より 大速夜法要・御伝鈔拝読・法話

【12月15日(日)】

午前10時より 門徒総永代経法要・法話

お昼 お齋(食事)

午後1時より 報恩講ご満座法要・御伝鈔拝読・法話

報恩講は宗祖親鸞聖人の遺徳を偲び、お念仏のお救いがこの私まで届いていることを喜ばせていただく法要で、浄土真宗門徒にとつて最も大切な法要です。また、15日の門徒総永代経では一年間にご往生されたご門徒の皆さまのお名前・法名を読み上げます。どうぞ有縁の皆さまお揃いでお参りください。

い。15日のお齋(食事)はお当番の皆さまによって準備されますので、どなた様もお食事におつきください。予約などは不要です。皆さまのお参りをお待ちしております。

※本年の報恩講お当番は、日開谷・阿波町組(大俣・下喜来大門・日開谷東谷西谷・阿波町)です。よろしくお願ひ致します。

法話講師：龍田智師(愛媛県今治市称名寺)

ご講師の龍田師は、2019年以來のお越しです。この五年の間に結婚され、育児にも奮闘中の若きお坊様です。副住職とも京都ご本山で共に学んだ中でもあります。聞きやすい仏さまのお話をしてくださいませ。どうぞお参りください。

◎除夜の鐘 修正会

【12月31日】 午後11時35分頃より

行く年来る年をお念仏とともに。どなた様も除夜の鐘を聞くことができます。また本堂では年明けとともにお勤めがあります。どうぞお参りください。

正信偈講座③⑥

(赤い経本一八六)

憶念弥陀仏本願 自然即時入必定
唯能常称如来号 応報大悲弘誓恩

【訓読】弥陀仏の本願を憶念すれば、自然に即時必定に入る。ただよくつねに如来の号を称して、大悲弘誓の恩を報ずべしといへり。

【現代語訳】阿彌陀仏の本願を信じれば、おのずからただちに必ず仏に成るべき身である正定聚に入る。ただ常に阿彌陀仏の名号を称え、本願の大いなる慈悲の恩に報いるのがよいと述べられた。

今回は前号に続いて、「憶念弥陀仏本願 自然即時入必定」のところから、必ず救うと誓われた阿彌陀仏の本願に、その身をゆだねた(憶念)その時に、おのずと「必定」(仏に成ることが定まった位)に入るとあります。

ここには「自然」とありますが、「しぜん」ではなく「じねん」と読みます。これは漢字の読みによくつか種類があるためです。

漢字辞書を見ますと「自」には「シ(漢音)」「ジ(呉音)」と二つの音読みが示されています。「然」にも「ゼン(漢音)」「ネン(呉音)」と示されています。つまり、「自然」は漢音では「シゼン」、呉音では「ジネン」と読みます。中国から日本に漢字が入ってくる時、いくつかの時代に分かれてその発音が入ってきました。

まず仏教とともに古い時代に入ってきた音が呉音と言われています。その後、遣隋使や遣唐使の時代に入ってきた音が漢音と言われています。僧侶はもともと呉音で經典を学び誦して来たようです。漢音の発音が中国からもたらされると、朝廷から漢音の使用が命じられますが、結局、漢音の発音は僧侶には馴染まなかつたよう、今も多くは漢音の発音は僧侶で音されています。仏教用語ではなくても、例えば私の好きなもの「自然薯」は「ジネンジョ」と読むように呉音の発音は日常用語としてもたくさん残っています。

さて、この「自然」とは、「人の手を介さない、おのずからそうであること」といった意味で使われる言葉ですが、親鸞聖人は、「おのずからしからしむ」と読み、人間のはからいを超えた阿彌陀仏の願いの力によつて、念仏に出会った者がおのずから救われていくことを表す言葉として使われています。自分のはからいで仏道を歩むのではなく、阿彌陀仏のはからいによつて、念仏申す者に育てられ、この命を丸抱えで浄土に生まれさせて仏に成らせようとする仏のはたらきを表しているのです。

つづいて「入必定」です。「必定」とは、必ず仏に成る身に定まった位のこと、正定聚とも呼ばれる仏道の位を言います。

阿彌陀仏という仏さまは、いつでもどこでも、私たちがどのような姿になろうとも、一緒に一緒にくださる仏さまです。その仏さまが「あなたは間違いないく仏さまになる身の上ですよ、その命をまかせなさい」とはたらいてくださっているのです。「必定」とは、「かならず」仏に成る身です。この世は様々な縁に振り回されて、様々なことをしていかなくてはなりません。こうしたいと思つて準備努力をしても、かならず成し遂げられるとは限りません。志望校に合格しようと一生懸命に受験勉強をしても、受験当日に体調不良に見舞われたり、事故に巻き込まれたり、何が起るか分からない「不定」な世の中に私たちは生きています。まさに一寸先は闇と言われるよう

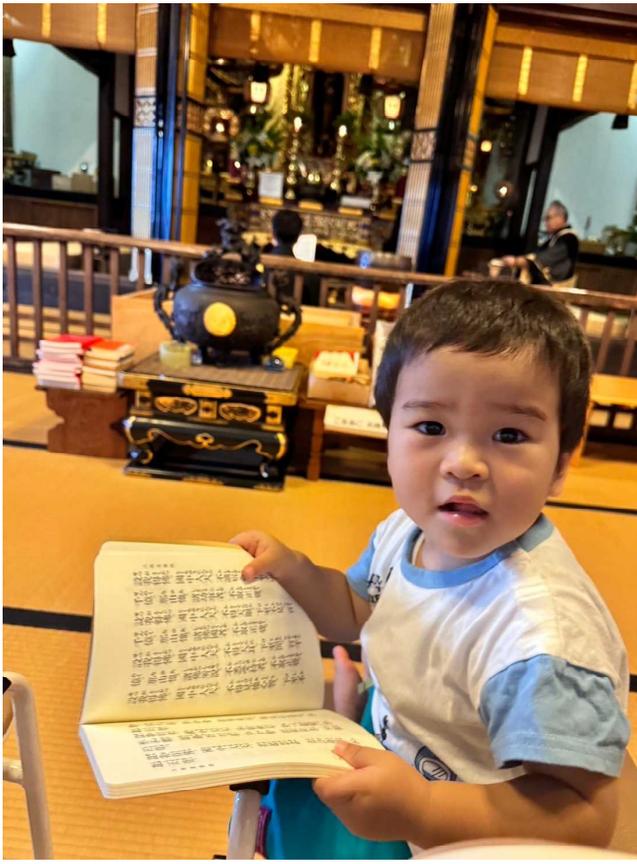
に、人生の先は見通しが利きません。不定な世の中ですから、この命が終わった後も一体どうなるのだろうかと不安になるのが私たちです。そのような不定な私たちに「かならず」と呼びかけてくださるのが阿弥陀さまなのです。確かなものなど何一つ持ち得ないこの私を必ず仏にするという力強いはたらきなのです。

そして、「必ず仏に成る身に定まった」ということは、どのよう
にこの命を終えていこうとも、どれほどの寿命でこの命を閉じ
ていこうとも、仏となるすばらしい命を生きてゆかれたと言う
ことです。思ったような死に様を選べないのが私たちですし、定
まった寿命がないのが私たちです。世間では長寿であれば大往
生などと言われますが、もつと生きていたいと思っておられたか
もしれませんし、もう少し生きていてほしかったと願うご遺族
の声もよく聞きます。仏さまの目には、立派な死に様、そうで
はない死に様、生き過ぎた長い一生、生き足りない短い一生と
いった価値判断はありません。どの命も「必ず救う、我にまかせ
よ」と仏に願われた命であり、その命に「浄土に生まれて仏に
成るのちですよ」と満点評価をしてくださる仏さまでありま
す。いつ人生が終わっても、そこで仏に成ることが完成する人
生、これはやはりすごいことだと思ふのです。

また、「必ず仏に成る身」ということは、この人生に新たな意
味ができるということでもありましょう。生まれてきて死んで
ゆく人生。生きていくことが素晴らしく死ぬことはつまらない
ことだ、命あつての物種だ、などと言われる世間ですが、阿弥陀
仏は、命を終えることを、浄土に生まれて限りのない命が開け
る機縁であるよと言ふのです。死はただ命の終わりではなく、
浄土に生まれていくことであると説くのです。そうであるなら
ば、この生涯は、仏さまの話に出会う場、浄土に向かつて生きる
命であると、生きていく意味も新たにたつてくるのではないでし
ょうか。

このような阿弥陀さまのお慈悲を聞かせていただいたなら、
「南無阿弥陀仏」と仏さまの名前をお称えして、「必ず救う我
にまかせよ、我が名を称えよ」と願つてくださる仏さまのご恩
に報いる人生を生きていきましようと言ふのが、つづく「唯能常
称如来号 応報大悲弘誓恩」という部分の意味であります。
親の心子知らずと言われるように、親の思いに応えることは
難しいものですから、仏さまのお慈悲に、凡夫の私が百パーセ
ント恩返しをするのは不可能でありましよう。しかしながら、
「我が名を称えてくれよ」と願つておられる仏さまですから、
「南無阿弥陀仏」と私たちが称える姿をどれほど喜んでく
ださると思ひます。

息子の燈樹はまもなく二歳です。イヤイヤ期が始まったの
か、自分のしたいことにこだわりを持ち、思い通りにならないと
泣いたり叫んだりするようになりました。本堂も遊び場の一つ
で、お線香を折つては投げ散らかすこともしばしば。まだまだ
阿弥陀さまのお話は分からないでしょう。しかしそのような息
子も仏さまの「必ず救う我にまかせよ」のお慈悲の中。必ず仏
に成る仲間でありましよう。ありがたいことです。



時間はかかりましたが、私を指さし「パパ」と呼び始めまし
た。もちろん嬉しい思いがこみ上げてきました。仏さまも私の
口から「南無阿弥陀仏」が出ることを待ち続けてくださり、喜
んでくださっているに違いありません。
今回までが「正信偈」の中の龍樹菩薩に関する部分でし
た。次回からは、天親菩薩の部分に入ります。

まもなく秋のお彼岸を迎えます。どうぞご一緒に仏さまの
お慈悲を聞かせていただきましよう。お参りをお待ちしており
ます。

令和6年 年忌表

令和6年の法事と亡くなった年

- 1周忌 令和 5(2023)年
 - 3回忌 令和 4(2022)年
 - 7回忌 平成30(2018)年
 - 13回忌 平成24(2012)年
 - 17回忌 平成20(2008)年
 - 25回忌 平成12(2000)年
 - 33回忌 平成 4(1992)年
 - 50回忌 昭和50(1975)年
 - 61回忌 昭和39(1964)年
 - 100回忌 大正14(1925)年
 - 150回忌 明治 8(1875)年
 - 200回忌 文政 8(1825)年
 - 250回忌 安永 4(1775)年
 - 300回忌 享保10(1725)年
- 過去帳やお位牌をご覧ください。

副住職担当、徳島新聞カルチャー教室のご案内

各講座、受講生募集中です。

■ 仏教講座『正信偈(しょうしんげ)』 ■

「きみようむりようじゆによらい」。浄土真宗で一番よく親しま
れてきた「正信念仏偈」をテキストに、インドから中国、日本へと
伝わった仏教の教え、念仏とは何かを一緒に学んでまいりましょ
う。

● 毎月第3金曜日 10時半、12時 月額 3300円

■ 親鸞聖人と『歎異抄(たんにしやう)』 ■

「悪人こそが救われる!」『歎異抄』には昔から多くの人々の心
をひきつけてやまない言葉がまつまっています。人間らしい矛盾を抱
えながら生き抜かれた親鸞聖人の言葉を丁寧に読み解きあじ
わつてまいりましよう。

● 毎月第2月曜日 13時半、15時 月額 3300円

【教室・申込先】

徳島新聞カルチャーセンター 徳島本校
徳島市寺島本町西1-5 アミノ東館7階
TEL 088-611-3355



令和7年 年忌表

令和7年の法事と亡くなった年

- 1周忌 令和 6(2024)年
 - 3回忌 令和 5(2023)年
 - 7回忌 平成31令和元年(2019)年
 - 13回忌 平成25(2013)年
 - 17回忌 平成21(2009)年
 - 25回忌 平成13(2001)年
 - 33回忌 平成 5(1993)年
 - 50回忌 昭和51(1976)年
 - 61回忌 昭和40(1965)年
 - 100回忌 大正15昭和元年(1926)年
 - 150回忌 明治 9(1876)年
 - 200回忌 文政 9(1826)年
 - 250回忌 安永 5(1776)年
 - 300回忌 享保11(1726)年
- 過去帳やお位牌をご覧ください。

秋の彼岸会永代経法要

9月22日 (日曜・秋分の日) 23日 (月曜・振替休日)

両日とも午後1時より お勤めと法話

※ 23日は、仏教婦人会による養護老人ホームお接待です。感染症予防のためにお接待が行えない場合は会員による会食と致します。会食は11時半より。準備お手伝いは9時頃よりお願いいたします。

お彼岸とは、さどりの岸、阿弥陀さまの極楽浄土です。お念仏を申しつつ先立つた方々を偲び、この私も同じ彼岸へ参ることに思いを寄せましょう。どなたさまもお参りください。お待ちしております。

法話講師 長谷川 憲章 師

(広島県三次市善徳寺住職)

ご講師の長谷川師は、お寺で様々なイベントを開いたり、ご自身もギターを持ってお説法をなさったり、愉快なご住職様です。



2024(令和6)年 尊光寺行事予定(下半期)

9月22日(日・祝) 午後 1時 秋の彼岸会ひがん えいいたいきよう永代経法要

9月23日(月・振休) 午後 1時 秋の彼岸会永代経法要

※23日は仏教婦人会による老人ホームお接待です。

11時半より会食、準備お手伝いくださる方は9時頃よりお願いいたします。

11月13日(水) 午前 9時 おみがきないぶつ(仏具磨き)

12月 1日(日) 午前 9時 お内仏報恩講法要

12月 9日(月) 午前 8時半 お餅つき

12月10日(火) 午前 9時 お荘厳しやうごん(おかざり)

報恩講法要に向けた準備日程です。お昼過ぎ終了の目標です。

皆さまのお力添えを宜しくお願い致します。

お手伝い衆・仏教婦人会会員を募集しております。

12月14日(土) 午後 1時 報恩講ほうおんこう法要・法話

午後 5時 お齋とき(食事)

午後 6時 報恩講大逮夜おおたいや・御伝鈔ごてんしやう拝読・法話

12月15日(日) 午前10時 総永代経法要・法話

午前11時半 お齋(食事)接待

午後 1時 報恩講ご満座法要

・御伝鈔拝読・法話

※本年のお当番は日開谷・阿波町組です。宜しくお願い致します。

日開谷阿波町組は、大俣・上喜来大門・日開谷東谷西谷・阿波町です。

12月31日 午後11時40分 除夜会(除夜の鐘)

1月 1日 午前 0時 修正会

どの行事もご参加をお待ちしております。